

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査 横浜市の結果

令和5年4月18日に横浜市立小学校6年生（約2万7千人）、中学校3年生（約2万3千人）を対象に実施された全国学力・学習状況調査の各教科に関する結果と児童生徒質問紙及び学校質問紙に関する結果の概要をお知らせします。

### ◎ 各教科の調査結果から見る横浜市の状況

- 調査結果においては、全国の平均正答率と比べ、国語は同等、算数・数学、英語は高い状況です。
- 中学校の英語において、全国の平均正答率に比べ、6ポイント高い状況が見られました。
- 小学校の算数、中学校の数学において、全国の平均正答率に比べ、2ポイント高い状況が見られました。

【平均正答率（％）】

	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
<b>横浜市</b>	<b>67</b>	<b>65</b>	<b>70</b>	<b>53</b>	<b>52</b>
全国との差	±0	+2	±0	+2	+6
神奈川県	66	63	70	52	50
全国	67	63	70	51	46

※ 全国の平均正答率については、文部科学省の指示のもと整数値に直して表しています。

※ 横浜市、神奈川県、全国の値は、公立学校の平均正答率です。

### ◎ 各教科で顕著な結果が見られた設問

※全国の平均正答率との差が顕著なものを表記しています。

#### 【中学校】

**英語** 「日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができる」が10ポイント高い。

**数学** 「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる」が6ポイント高い。

**国語** 「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる」が2ポイント高い。

「（竹取物語の）歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができる」が5ポイント低い。

#### 【小学校】

**算数** 「百分率で表された割合について理解している」が7ポイント高い。

**国語** 「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができる」が3ポイント高い。

「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる」が4ポイント低い。

### ◎ 児童生徒質問紙、学校質問紙の結果を踏まえた分析

- 中学校英語については、AETの市内小中学校全校配置（平成21年度～）や、小学校1年生からの外国語活動の実施（平成22年度～）の成果が、今年度の平均正答率に表われていると考えられます。
- 算数、数学において全国平均正答率を上回っているものの、国語において全国平均正答率と同等であるのは「目的や意図に応じた話の内容を捉え、自分の考えをまとめる」ことに課題があるといえます。一方で「自分の考えを発表する場面で、考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなど工夫して発表していましたか」の児童生徒質問紙の問いに肯定的に回答した割合が、小学校では全国に対して3ポイント高く、中学校では4ポイント高くなっています。今後は、各学校が「主体的・対話的で深い学び」の授業改善に向けて一層取り組んでいく必要があります。
- 学校質問紙の「前年度までに、近隣等の小学校（中学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか」の質問に肯定的に回答した学校の割合が、小学校では全国の61%に対して横浜市は77%と16ポイント高く、中学校では全国の67%に対して横浜市は82%と15ポイント高くなっています。横浜市で、平成21年度から小中9年間一貫した教育を推進してきた成果だと考えられます。

#### お問合せ先

教育委員会事務局教育課程推進室長 山本 朝彦 Tel 045-671-3723